

山形県 ICT活用4次元モデル1.0

山形県教育センター 調査・研究 令和3年度～令和4年度
「令和時代のスタンダードとしての学校ICT環境における児童生徒の学び」調査・研究より

本モデルの使用例

- ステップ1 ①ではICT活用場面を知り、②では自分のICT活用度を知り、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」＝「児童生徒が主語」となるような授業を作成してみては？
- ステップ2 ③では①②にてICT活用のイメージや実践等ができたら、教科横断的なまとめをもって体系的な情報活用能力育成につなげてみては？
- ステップ3 ④ではICT活用のレベルアップや、情報活用能力育成レベルの見直しをタイミングごとに実施してみては？つまりカリ・マネです。



所々に参考資料のリンクが！クリックしてみて！
※ネット接続時

1 学校におけるICTを活用した場面*



一斉学習



個別学習



協働学習



探究



校務

情報モラルから
デジタル・シティ
ズンシップへ

3 教科横断的ICT活用による情報活用能力育成

「学校ごと」や「教科ごと」や「教科を超えて」
情報活用能力の体系的な育成

教育センター参考データ集

に他のい
関利者わ
与用のゆ
・を尊ぶ
参通重べ
加する
共感から
等デ論
能カジタル
社会を育む
に積極脱却
技術

参考URL(クリックでジャンプ)
 ●山形県立学校ICT利活用ガイドライン
 第6章情報の取り扱いについて
 ●文科省 情報化社会の新たな問題を考えための教材
 ●経産省 未来の教室STEAMライブラリー「デジタル・シティズンシップ」で検索

2 準備

ICT活用度

SAMRモデル*

授業在り方変容

児童生徒が自ら学び、教師がサポートする

準備

- クラス機能作成やデータのクラウド保存、共有等
- 課題出題
- 遠隔授業
- その他ICT活用方法と実践

- 板書→大型提示装置
- プリント→アンケート機能
- 手書き記録→画像撮影
- 地図探索機能で思考深化

- 教師がアナログをデジタルに代替
- 教師が効率化、時間短縮化等、ICTの良さを実感

- アンケート機能即時配付回収
- 動画等手本による教示

- S「代替」に加え、教師の働きかけにより動画等イメージ増強、協働作業等で児童生徒の主体性や対話をとおして学びを深める

- 児童生徒の選択・タイミング動画・説明PDF視聴→理解深化
- クラス・学年・学校・国を超える外部や児童生徒講師オンライン受講

- A「増強」に加え、児童生徒が自らの選択やタイミングで、クラス等の枠を超えた学習活動で学びを広げ、深める

- 児童生徒の選択・タイミングで動画や説明PDF視聴→反転学習→授業は学び合い
- アンケート機能自作問題クラウド上掲載、家庭学習

- A「増強」+スタディ・ログ化、児童生徒自ら次に生かす
- クラス・学年・学校・国を超えるホワイトボード機能等で意見交換・多様な思考触れ合い・学び合い

- メタバースやブロックチェーン等のICT新技術をツールとした
- 一層児童生徒が主体的、対話的で深い学びに一層つながる学習活動
- 地域等の課題発見・解決や産学官連携等、社会に開かれた教育で新しい価値の創造につながる学習活動
- 児童生徒が授業の主語となり、教師は伴走者になる、授業の新しい在り方が定着

活用方法例と実践例*	活用イメージと	場面毎に	③①課題の整理→④②情報の収集		
			①分析	②まとめ	③表現
●アンケート機能等保護者面談日程調整	●アンケート機能で児童生徒・教員体調報告・欠席連絡				

他の事例は？動画は？

- 教育センターHP
- 文科省StuDX style

4 ①～③を年度や学期等タイミングごと見直し レベルアップやレベル再検討 カリ・マネ*



例えば教科▲▲情報活用能力ステップ表

例えば○学年情報活用能力ステップ表

例えば◇◇学校情報活用能力ステップ表